暖冬の影響に対する今後の農作物の栽培管理について

令和２年(2020 年) １月 23 日
上伊那農業改良普及センター

【麦類】

1　越冬後の生育状況の確認
小麦「ハナマンテン」は、２月下旬までに生育状況（茎数、幼穂形成の有無等）を確認する。特に、播種時期の早かったものについては重点的に観察する。

2　対　策（←２月下旬までに生育状況を確認し、茎数が十分確保され、幼穂が形成されていれば実施する）

（1）踏圧（生育前進・倒伏対策）

ア　効果
・暖冬等で幼穂分化が進みすぎた場合の生育抑制による有効茎数増加
・幼穂形成遅延による凍霜害回避や耐寒性強化
・下位節間の伸長抑制による倒伏防止

イ　方法
土壌が乾燥している日中に、50～60kg／㎡相当のローラーか足で１～２回踏圧する。
【留意事項】
・トラクターによるローラー牽引では、車輪による損傷を最小限とするため、麦畦と直角に走行する。
・春先の茎立期後は茎を損傷するため、幼穂形成期までとする。
・生育の悪い麦では行わない。
・土壌水分の高い粘土質の水田では、土を締めすぎるので行わない。

（2）追肥(越冬後追肥)

ア　生育量不足の場合
・茎数不足の場合は、幼穂形成期までに施用する。
・本年は、台風の降雨により播種時期が遅くなり、生育量がやや不足している圃場が多い。このような圃場では、通常よりやや早めの時期に追肥を実施する。
・積雪地帯においては、積雪量が５ｃｍ程度になったら、午前中の雪面が固いうちに散布する。

イ　生育量過多の場合
・越冬障害が少なく生育量の多い場合は、追肥時期を茎立期頃まで遅らせ、量は少なめにする。
・生育量が多いものの、黄化している場合は、葉色回復程度に応じて窒素成分で１kg／10a 程度を幼穂形成期までに施用する。

【果樹】

1　整枝せん定
（1）せん定作業は例年より早めに終了させる。特に核果類は早めに行う。
（2）ぶどうでは樹液流動（水上げ）前にせん定作業が終わるようにする。

2　樹体凍害防止対策（実施していない場合）
（1）核果類では主幹部へワラ巻き資材による保護を行う。特に幼木期が被害に遭いやすいので徹底する。
（2）りんごわい化栽培では、主幹部への白塗剤塗布を行う。特に定植５年間は励行する。

3　その他
（1）休眠期防除は、生育状況をよく観察し、発芽前の防除時期を逸しないように注意する。
（2）生育前進化に伴い、開花期の凍霜害発生が懸念される。防霜対策として燃焼資材の準備や防霜ファンの点検を早めに行う。